

『一人の笑顔のために』

お客様を笑顔に！

これは、本校で取り組んでいる起業体験活動で生徒たちが立ち上げた株式会社（模擬会社）の多くが、企業理念に取り入れている言葉です。利益を得ることだけではなく、「お客様を笑顔にする」ことを目的に取り組んでくれていることをとてもうれしく思っています。

お客様のために自分に何ができるかを考え、行動することがとても大切であることを教えるくれるディズニーランドでのエピソードを紹介します。

『約束のお子様ランチ』

ある日、若い夫婦が二人でディズニーランドのレストランに入ってきました。夫婦は二人がけのカップル席に案内されると、「お子様ランチ2つ」と注文したのです。ところが、ディズニーランドには、「お子様ランチは9歳まで」という決まりがあるそうです。キャストは、丁寧に頭を下げて言いました。

「お客様、大変申し訳ございません。お子様ランチは、大人の方がお召し上がりになるのには少なすぎますので、お子様限定のメニューになっております。」

それを聞いた女性は、がっくりと肩を落としました。

キャストは、女性がとてもがっかりしたのを見て、これは何か特別な理由があるのかも・・・と思い、思い切ってたずねてみました。

「お子様ランチはどなたがお召し上がりになりますか？」

女性は静かに話し始めました。

「実は、私達2人には子供がいたんですが、1歳のお誕生日を迎える前に、病気で亡くなったのです。生前、子供の病気が治って元気になったら、いつか3人でディズニーランドに行って、お子様ランチを食べようね・・・と約束していたんです。なのに、結局、その約束を果たすことができなかったんです。今日は、子供の1回忌なのですが、子供の供養のためにその約束を果たそうと思ってディズニーランドに来たんです。」

キャストは2人に向かって深々と頭を下げると、

「かしこまりました。お子様ランチ、お2つですね。それでは恐れ入りますが、お席を移動していただけますか。」

と言って、2人がけのカップル席から、ファミリー席に移動してもらいました。

そして、キャストは2人の間に、子供用のイスを準備すると、「お子様は、どうぞこちらに」と、まるでそこに子供がいるかのように導きました。

しばらくすると、お子様ランチを3つ持ってきて、子供用のイスの前に、3つ目のお子様ランチを置いて言いました。

「こちらはディズニーランドからのサービスです。ご家族でごゆっくりお楽しみください。」

2人はとても感激したそうです。そして、後日、ディズニーランドには、こんな手紙が届いたそうです。

「お子様ランチを食べながら、涙が止まりませんでした。私達は、まるで娘が活着ているかのように家族の団らんを味わいました。」

(引用文献 「私が一番受けたいココロの授業」 比田井和孝 比田井美恵 著)



9/24(木)の事業説明会の様子
※保護者に会社の概要や、商品について説明をしています。

